懸賞論文の選考について

経済学部では、1985 年から研究演習Ⅰ・Ⅱの在籍者を対象として、懸賞論文を募集している。本年度は、個人執筆論文部門に８本、共同執筆論文部門に９本の応募があった。応募点数は例年に比べて多い。いずれも意欲的に取り組まれた論文であった。選考委員会の審査と教授会の議を経て以下の論文に賞を与えることになった。

経済学部懸賞論文受賞者と論文名

入賞

＜個人執筆論文部門＞

伊東桃花（田村ゼミ）

「百貨店と通信販売における販売競争とその展望」

中山七海（猪野ゼミ）

「チケット転売におけるスクリーニングの活用」

佳作

＜共著執筆論文部門＞

逸見光咲・岡響生・福田大和・政安梨紗（栗田ゼミ）

「マダガスカル農村において女性のエンパワーメントが子どもの栄養状況に与える影響
—パネルデータを用いた分位点回帰による実証分析—」

植村優菜・大崎勇・岡直樹・川戸若葉・富田佑莉亜（栗田ゼミ）

「一時的な所得ショックが家計の教育投資に与える影響とリスクシェアリングの効果
—マダガスカル農村部を事例に—」

岡山明日香・滝口眞結（田村ゼミ）

「ゲーム理論で読み解く日本の女性の雇用環境」

＜個人執筆論文部門＞

岩谷桃佳（栗田ゼミ）

「労働集約型工場におけるインクルーシブリーダーシップが従業員の非認知能力に与える影響
—ラオス日系企業の事例を用いて—」

＜講評＞

学部学生の学術論文として優れた水準に達しているという理由から、入賞は個人執筆論文２編に与えられた。１つめの論文「百貨店と通信販売における販売競争とその展望」は、対照的な特徴を持つ百貨店と通信販売を比較し、商品価格や消費者にとっての買物時間の変化がそれぞれの戦略にどのような影響を与えるかをゲーム理論における戦略形ゲームの枠組みを用いて分析し、関係性を明らかにしている。身近なテーマを理論的に整備し、委員から好評を得た。２つめの論文「チケット転売におけるスクリーニングの活用」は、先行研究を考察し、スクリーニングを利用した会員制のチケット販売方法を組み込んだ新しいモデルを提示している。これら２つの研究は、問題意識の明確さ、理論的整合性等の点で高く評価された。

なお本年度は入賞した論文に次ぐ優れた共著論文３篇と単著論文１編が佳作に値するものとして評価された。共著論文の「マダガスカル農村において女性のエンパワーメントが子どもの栄養状況に与える影響」は、パネルデータを使用し、エンパワーメントが子どもの栄養改善を通じての影響を、分位点回帰分析によって研究している。時間選好を組み込んだ新しい試みである。共著論文の「一時的な所得ショックが家計の教育投資に与える影響とリスクシェアリングの効果」は社会関係資本と組織との関係をプーリング回帰モデルで検証し、緊急度の高いテーマに取り組んでいる。他の２論文も研究の熟度等において評価された。以上の佳作４編は、それぞれ入賞作に比べても遜色のない論文である。

（懸賞論文選考委員会委員長　桑原秀史）